

STUK > 通信

携帯電話からの放射線が人体に及ぼす影響に関する研究：生体への影響に関する興味深い観測—健康への影響は曖昧である。

2008年2月12日

フィンランドの放射線及び核安全局（STUK）の研究によると、携帯電話の放射線がヒトの肌に影響があることが人体細胞の分析をして解った。結果はWebサイトのBMCゲノムジャーナルに2008年2月11日に発表された。

先の研究では、携帯電話からの放射線（ラジオ周波数で変調された電磁場：RF-EMF）は人体の細胞活動及び蛋白質を変化させる、とされた。今回のSTUK研究は世界的にユニークなものである。なぜなら、RF-EMFを人体の皮膚の一部に暴露した場合ヒトの蛋白質を変える原因になりそうなことを始めて検討したからである。

この研究では10人のボランティアが腕の一部分にGSM信号を1時間暴露した後、暴露部分及び非暴露部分の皮膚の蛋白質を検査した。分析によると、580中8の蛋白質が影響を受けており統計的に有意であることが示された。

STUKの研究教授Dariusz Leszczynski は、携帯電話からの放射線が人体に何らかの影響がある、と述べている。

Leszczynski氏によると、このような携帯電話からの放射線による変化が健康に影響あると断言するのは時期早尚である、とのことである。

また、このプロジェクトの目的は健康への影響を検知することではなく、携帯電話からの放射線にヒトの肌が反応するのか、また蛋白質組織検査によるアローチは有効かどうかを明らかにすることである、と述べている。

50～100人のボランティアによる更に詳しい研究がSTUKにて計画されている。予算が決まれば2009年にこの研究が行なわれる予定である。

今回の研究はTekes（技術開発のためのフィンランド基金）及びSTUKからの提供にて行なわれ、また国家プロジェクトHERMO (Health Risk Assessment of Mobile Communication) の一部で、2007年9月に終了した。文献は下記のWebサイトを参考のこと。

<http://www.biomedcentral.com/1471-2164/9/77/abstract>

追加情報：

研究教授 Dariusz Leszczynski, tel+358 9 759 88 694

情報部 Rikka Laitinen-Sorvari, tel+358 9 759 88 210